

議会運営委員会調査報告書

1 調査事件

議会報告会について

2 調査の経過

前記事件を調査するため、平成 24 年 6 月 7 日、21 日に当委員会を開いた。

(1) 出席した委員

坪内 一由 鈴木 逸朗 大田垣 強 波多野 優 洲本 稔
木村 圭介 上道 正明 中島 利信（議長）

(2) 欠席した委員 なし

3 議会報告会の開催概要

平成 21 年 4 月からスタートした議会基本条例に基づき、3 回目となる議会報告会を 5 月 8 日から 28 日にかけて市内 12 会場で実施した。

参加者は、延べ 430 名で昨年と比べ 107 名の減少、アンケートは 219 名から提出され、昨年と比べ 94 名減少している。

	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年
参加者（対前年増減）	694	537(▲157)	430(▲107)
増減率		▲22.6%	▲19.9%
アンケート提出（対前年増減）	357	313(▲44)	219(▲94)
増減率		▲12.3%	▲30.0%
アンケート回収率	51.4%	58.2%	50.9%

報告会は、昨年と同様に議長を除く 18 名の議員が会場ごとに 6 名のグループ編成による輪番制で行い、新たな試みとして、少しでも理解が深まるようにとパワーポイントを使用する方法を採用した。議長のあいさつの後、総務常任委員会は『ケーブルテレビシステムの光ファイバー化事業について』、文教民生常任委員会は『第 5 期介護保険事業計画について』、産業建設常任委員会は『経済振興と生活基盤整備について』をテーマに掲げ、3 月定例会の内容を中心に各委員会 10 分程度の報告を行った。その後、参加者からの質疑、意見聴取とその応答を行った。

発言者数は 63 名、発言件数は 170 件で、今回の報告会テーマ以外の主な発言内容は、以下のとおりであった。

・総務常任委員会所管

コミュニティバス運行に対する要望、未収金対策など 9 件

・文教民生常任委員会所管

福祉事業に対する補助金の要望、新病院建設に対する要望など 15 件

・産業建設常任委員会所管

道路整備への意見、夜久野高原の利活用、がれき処理対応など 22 件

・その他（特別委員会等を含む）の所管

市長・議員の同日選挙、反問権の付与、基金問題、新庁舎建設、ごみ処理施設建設計画など 49 件

以上のように、報告テーマ以外の項目についても多くの質疑や意見が出された。

4 アンケートの集約結果

アンケートは、参加者 430 名の 50.9%となる 219 名から提出された。このうち、男性は 191 名で 87.2%を占め、年代別では 60 代が 46%と最も多く、次いで 50 代の 24%、70 代が 16.4%と 50 代以上が 85.8%と大勢を占めたことは、昨年（9割）と同様の傾向であった。

- ・ 説明内容については、「わかりやすかった」が 44.7%、「わかりにくかった」が 16.4%、「どちらともいえない」が 26.9%、「未記入」が 11.9%となり、内容の理解を深めるためパワーポイントを使用したものの、「わかりやすかった」が前回とほぼ同じで半数を超えなかった点は残念である。
- ・ 配付資料は、「適当」が 74.4%、「不足」が 20.1%、「多すぎる」が 0.9%、「未記入」が 4.6%で、「適当」が昨年同様 7割を超えたことから、資料については参加者も納得される準備ができたものと思われる。
- ・ 説明時間については、「長い」が 5.5%、「ちょうど」が 77.2%、「短い」が 8.7%、「未記入」が 8.7%で、昨年と比較すると「長い」が 6%減少し「ちょうど」が 8%程度伸びた結果は、各委員会とも 10 分程度の報告を厳格に守った結果とパワーポイントの使用により聞きやすかったものと思われる。
- ・ 開催回数については、「年 2 回以上」が 29.7%、「年 1 回」が 63%、「開かなくてよい」が 3.7%、「未記入」が 3.7%で、昨年と比較して「年 2 回以上」が 5%減少し、「年 1 回」が 6%伸びていることは、ほぼ年 1 回が参加者の中に定着しつつあると判断して良いのではと思う。同時に、毎回参加者数に関係なく「開かなくてよい」が 8 名あることは気にかかる。
- ・ 報告会の評価については、「評価する」が 55.7%、「評価しない」が 6.4%、「どちらともいえない」が 32.0%、「未記入」5.9%で、この 3 年間で全ての率が大きく変動していないが、評価は 53~57%台で評価しないは 5~6%台で推移している。

5 アンケートの設問回答欄に記入のコメントの分析

アンケートの提出数は減少したが、設問の回答欄（問 1 及び問 5）に「その理由」欄を設けたことから、数多くのコメントが寄せられた。

- ・ 問 1 「議会報告会の説明内容はどうでしたか」の問いに
「わかりやすかった」と回答した 32 名の内、21 名がパワーポイントの使用を評価し、説明が的確及び適切な回答があったなどのコメントがあった。
「わかりにくかった」と回答した 18 名は、棒読みで伝わりにくいか、具体的な内容に乏しい、ポイントを絞った説明が欲しいなどであった。
「どちらともいえない」と回答した 17 名は、事前に説明資料が欲しいとか、市政報告会との違いを明確に、物足りなさを感じたなどのコメントがあった。
- ・ 問 5 「今回の議会報告会はどうでしたか」の問いに
「評価する」と回答した 36 名は、建設的な意見・質問があり、内容の濃い報告会だった、熱心な討論ができたなどのコメントがあった。
「評価しない」と回答した 2 名は、議会の具体的な行動がみえない、個々の議員の意見は言えないの一点張りであるといったものであった。
「どちらともいえない」と回答した 17 名は、議会として取り組んでいる状況を報告すべき、地域に密着した話が欲しい、特定の質問者の対応、通り一篇の報告で物足りないなどのコメントがあった。

6 アンケートの自由意見欄のコメント

アンケートの提出数 219 名のうち 46 名から意見等が寄せられた。その主な意見は、①竹田城跡の観光問題、②市長と市議会議員の同日選挙、③前年度報告会の質問に対する回答を、④市民要望に対する答弁を、⑤報告テーマは参加者のニーズにあった項目を、などの意見が寄せられた。

7 委員会のまとめ

市民に理解され、期待される議会報告会への改善に向けて、委員会で出された検討課題は次のとおりである。

- ① 議会報告会で出された質問、意見等について、その後の対応状況が見えにくいとの苦情が出されている。以前から報告書を集約し、所管の常任委員会等での対応を求めているが、さらに取組を強める必要がある。短期間での対応が困難なものもあるが、少なくとも次回の議会報告会開催までに、取組状況も含め、議会広報等を活用し、市民にも見えるようにする必要がある。
- ② 今回採用したパワーポイントでの説明は、好評価を得たと思われる。さらに効果的な活用方法も検討する必要がある。
- ③ 一部会場で主催者としての運営機能を失った場面がみられた。事前に確認をしている以外の運営方法についての提案は、検討課題として持ち帰ることを基本とし、市民の発言に対しては司会者が指名した議員が応答することを徹底する必要がある。また、参加者にも意見交換の運営方法に理解を求める必要がある。
- ④ 現行の常任委員会毎の報告テーマの設定方法や報告テーマ数など、報告テーマのあり方について、検討する必要がある。
- ⑤ 参加者数の減少に関して、十分な開催周知を望む声が寄せられている。開催周知の徹底と周知方法の再検討も必要である。
- ⑥ 市長主催の市民フォーラムとの差異が分からないとの指摘も少なくない。議会報告会本来の趣旨を再認識するとともに、発言方法なども含めて、根本的な検討も必要である。

以上、朝来市議会会議規則第 103 条の規定により報告します。

平成 24 年 6 月 28 日

議長 中 島 利 信 様

議会運営委員会
委員長 坪 内 一 由